

出席及び遅刻に関する規範と集団の成績*

吹奏楽部と洋弓部の調査研究

佐々木 薫

問 題

職場集団のインフォーマルな規範が成員たちの生産行動を規制し、ひいては集団の生産性に影響を及ぼすことを明らかにしたのは、いわゆるホーソン研究、特に配電盤捲き線作業室における参加観察であった (Roethlisberger & Dickson, 1939)。なかでも生産制限規範 (production-restricting norm) と呼ばれる規範が有名である。これは怠惰な成員を督励すると同時に働きすぎる成員をも牽制して、集団の生産量を常時一定に保とうとするはたらきをもっていた。この種の職場規範の存在は、その後さらにハーウッド社のパジャマ縫製工場における職務変更への抵抗について研究したカッチとフレンチ (Koch & French, 1948) によっても報告されている。ここでは、会社側から一方的に職務変更を求められた女工たちが、会社側の設定した標準作業量 (60単位) より10単位も低い仲間うちの標準をつくりあげ、これを超えて会社側の標準に近づこうとした者をスケープゴート化するなどして圧力を加え、結局仲間うちの標準にそった作業量にまで引き戻したという。

シャクターら (Schachter et al., 1951) は、集団の凝集性が生産性に及ぼす効果を検討した実験において、かれらが誘導 (induction) と呼ぶ変数を操作し、凝集性は生産性に対して誘導がプラスならば促進的に¹⁾、また誘導がマイナスならば抑制

的に作用することを示した。誘導の操作は、実際は実験者が事前に用意したメッセージをチームメートから届けられたものと装って被験者に手渡すことによって行われた。プラスの誘導の条件では「もっと頑張って生産を上げましょう」といった内容のメッセージを、マイナスの誘導の条件では反対に「もう少しゆっくりやりましょう」といった内容のメッセージをいずれもチームメートの全員から繰り返し受け取ったのである。このような状況のもとでは、誘導はチーム内に事実上プラスまたはマイナスの生産標準ないし規範をつくりあげていたものと解される。実際、この実験を追試したバーコウィッツ (Berkowitz, 1954) は、同様の手続きによって操作した変数を生産標準 (production standard) と呼んでいる。バーコウィッツの追試は、シャクターらの結果をより明瞭な形で (つまり、プラスの誘導＝生産標準のもとで凝集性高群の方が低群より有意に高い生産性を示すこと) を確認し、いったん標準が成立すれば誘導メッセージを送らなくてもこの効果が持続することを確かめている。わが国でも同様の実験的研究が、前田らによって行われ、同様の結果を得ている (前田恒・小嶋外弘・野間健三、1960；前田恒・小嶋外弘・中島貞夫、1962；Marda, 1968)。シャクターらに始まるこれら一連の研究は、いずれも生産水準に関する集団標準ないし規範が集団の生産性を規定する有意な要因であることを示している。

* 本研究は、次の学会発表を基にまとめたものである。ただし、発表した図の一部に誤りが認められたため、原資料に当たって訂正した。

佐々木薫 集団の生産性と参加規範に関する調査研究 日本グループ・ダイナミックス学会第21回大会 1973 発表

1) シャクターらの実験では、プラスの誘導のもとでの生産量は凝集性高群の方が凝集性低群より大きい平均値を示したが、その差は統計的に有意でなかった。これは一種の天井効果によるものとみられるので、バーコウィッツはこの点を方法的に改善して追試を行い、予想通りの有意差を検証している。

佐々木と山口（1971）は、リーダーシップ・タイプと集団の生産性との関係を見ようとした実験において、PM型リーダーのもとで生産促進的な規範が、P型リーダーのもとで生産抑制的な規範がそれぞれ形成されていることを（リターン・ポテンシャル曲線の差異として）見出し、これらの規範が集団の生産性に対し媒介変数として作用しているであろうと推論している。

一方、欠勤や遅刻に関する規範については、報道関係企業体における欠勤規範（佐々木、1994a）と都市消防組織体における欠勤規範と遅刻規範（佐々木、1994b）に関する調査研究があり、ジャクソン（Jackson, 1960 & 1965）のリターン・ポテンシャル・モデルによって測定されたこれらの規範の構造特性が、職場集団の取り組む業務の特性やリーダーシップ・タイプとどのように関係しているかを検討している。しかし、これらの研究は欠勤や遅刻に関する職場規範が職場集団の生産性とどのように関係するかを検討したものではなかった。

本研究では、大学生のクラブ活動に題材を取って、クラブ集団のもつ出席および遅刻に関する規範がクラブの生産性（すなわち、コンクールやコンテストにおける成績）とどのように関係しているかを検討しようとするものである。ここで出席に関する規範というのは、欠勤（＝欠席）に関する規範をいわば裏側から測ったもので、遅刻に関する規範とともに集団の活動時間を確保する機能を果たしている規範である。これらの規範は集団活動に対する成員たちの参加を規定するという意味において、「参加規範」と総称することができよう。

参加規範と集団の成績（ないし生産性）との間には次のような仮説が成り立つ。

仮説1：成績上位群は成績下位群よりも厳しい参加規範をもっているであろう。

なぜなら、厳しい参加規範はクラブの活動（そ

の大部分は練習）への成員たちの参加を促進するから、より多くの練習が成績の向上をもたらすであろう。

仮説2：集団の成績が成員間の相互作用（いわゆる連携プレイ）に依存する程度が高いほど、参加規範と集団成績との関係は緊密になるであろう。

なぜなら、集団の成績が成員間の相互作用に強く依存するような課題においては一斉練習が重要になるが、他方、成員個人の成績の加算によって集団の成績が決まるような課題においては、むしろ成員個々人の事情に合わせて個別に練習する方が効果的で、一斉練習はさほど重要ではなくなるであろう。そして、ここで取り上げる参加規範は、主として一斉練習の時間を確保することに関わっている、と考えられるからである。

本研究では、前者の例として吹奏楽（ブラスバンド）が、後者の例として洋弓（アーチェリー）が取り上げられる。

方 法

調査当時関西学生吹奏楽連盟に加盟していた13大学（工業専門学校1校を含む）の吹奏楽部、および関西学生アーチェリー連盟に加盟していた23大学（短期大学1校を含む）を対象に、それぞれの連盟の後援を得て、質問紙調査を実施した。調査の時期は、吹奏楽部については昭和44年11月19日から12月25日まで²⁾、洋弓部については昭和47年8月18日に調査用紙を配布し24日に回答を回収した³⁾。有効回答票のクラブ当たり平均回収率は、吹奏楽部13クラブで81.6%、洋弓部23クラブで56.1%であった。吹奏楽部のデータは、連盟主催のコンクールなどにおける演奏に対する連盟役員たちの評価に基づいて上位6校と下位7校とに区分された⁴⁾。洋弓部のデータからは、女子校4校を除いた残り19校について、連盟主催の春期リーグ

2) 調査は各クラブの演奏会の1～2週間前をねらって実施された。この時期にはどのクラブも練習を中心とした正常な活動が行われ、部員たちの参加が最も安定しているからである。

3) この期間に関西学生個人選手権の予選が行われたので、調査用紙の一斉配布、一斉回収が最も容易に行われた。

4) これらの調査の詳細は、佐々木薫の指導のもとに作成された次の卒業論文にまとめられている。

尾崎正明 大学のクラブに関する集団力学的研究：吹奏楽団体について 関西学院大学社会学部 昭和44年度卒業論文

藤原重明 大学のクラブに関する集団力学的研究：洋弓部の集団特性と生産性との関係について 関西学院大学社会学部 昭和47年度卒業論文

戦の成績をもとに上位6校と下位7校を選び出し、中間の6校を取り除いた。結局、本研究に用いられた各クラブの部員数、有効回答票数、および回収率は、表1の通りであった。

集団規範の測定には、ジャクソン（Jackson, 1960 & 1965）の提唱するリターン・ポテンシャル・モデルに基づいて佐々木（1963 & 1981）の考案した次の質問項目が用いられた。

吹奏楽部における出席に関する私的見解と集団規範は、それぞれ次のQ1およびQ2によって、また遅刻に関する私的見解と集団規範は、それぞれQ3およびQ4によって測定された。

さらに、洋弓部における出席に関する私的見解と集団規範は、それぞれ次のQ5およびQ6によって、また遅刻に関する私的見解と集団規範

は、それぞれQ7およびQ8によって測定された。

吹奏楽部調査と洋弓部調査では、是認から否認までの7段階評定尺度は共通であるが、出席および遅刻の程度の区分に若干の差異がある。これは両種のクラブそれぞれの内情に明るい者の示唆に基づいて質問項目が作成されたためである。両種のクラブを直接比較する場合には必要な調整を施した（結果5. および6.）が、分析の主眼が成績上位群と下位群との比較にあるところでは、特にそのような調整は行わなかった。

結 果

上記の質問に対する回答は、クラブを単位として、次のように集計された。まず、出席に関する

表 1 分析に用いた各クラブの部員数、有効回答票数、および回収率

吹 奏 楽 部				洋 弓 部			
クラブ	部員数	有効回答票	回収率	クラブ	部員数	有効回答票	回収率
成績上位群：				成績上位群：			
A	63	51	81.0%	a	28	11	39.3%
B	44	38	86.4	b	53	30	56.6
C	37	37	100.0	c	34	25	73.5
D	39	35	89.7	d	39	19	48.7
E	31	28	90.3	e	40	23	57.5
F	42	39	93.1	f	34	20	58.8
平均				平均			
成績下位群：				成績下位群：			
G	32	27	84.4%	g	43	12	27.9%
H	30	18	60.0	h	24	6	25.0
I	35	24	68.6	i	31	16	51.6
J	31	24	77.4	j	26	13	50.0
K	33	25	75.8	k	33	14	42.4
L	17	9	52.9	l	16	14	87.5
M	17	12	70.6	m	24	8	33.3
平均				平均			
27.9				28.1			
19.9				11.9			
70.0				45.4			

なお、これらの調査研究の概要は、次の学会で報告されている。

佐々木薫 学生集団のグループ・ダイナミックス的研究（Ⅰ）：吹奏楽部の集団特性と生産性との関係について
日本教育心理学会第12回総会 1970 発表論文集 pp. 308-309.

佐々木薫 学生集団のグループ・ダイナミックス的研究（Ⅱ）：吹奏楽部の集団特性と成員の満足度との関係について
日本教育心理学会第13回総会 1971 発表論文集 pp. 390-391.

佐々木薫 学生集団のグループ・ダイナミックス的研究（Ⅲ）：洋弓部の集団特性と生産性との関係について
日本教育心理学会第15回総会 1973 発表論文集 pp. 268-269.

Q 1 [クラブの活動全体（合宿、遠征などを含む）を100と考えて] あなたの部員がクラブの練習や会合に次のように参加した場合、あなたはそれをどう思いますか。（各列の数字を○で囲んで下さい。）

クラブの部員が ↓ あなたは→	大変よいと思う		一応よいと思う		まあよいと思う		良いとも悪いとも 思わない		どちらかといえ ばまずいと思う		少しまずい と思う		大変まずい と思う	
すべてに参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
90%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
80%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
70%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
60%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
半分以下しか参加しない	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	

Q 2 それではあなたが次のように参加した場合、クラブの部員はどう思うでしょう
か。

あなたが ↓ クラブの部員は→	大変よいと思うだろう		一応よいと思うだろう		まあよいと思うだろう		良いとも悪いとも 思わないだろう		どちらかといえ ばまずいと思うだろう		少しまずい と思うだろう		大変まずい と思うだろう	
すべてに参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
90%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
80%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
70%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
60%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
半分以下しか参加しない	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	

Q 3 あなたのクラブの部員がクラブの練習や会合に次のように遅刻してきた場合、
あなたはそれをどう思いますか。

クラブの部員が ↓ あなたは→	大変よいと思う		一応よいと思う		まあよいと思う		良いとも悪いとも 思わない		どちらかといえ ばまずいと思う		少しまずい と思う		大変まずい と思う	
15分前～定刻までに来た場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
0～15分遅刻した場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
15～30分遅刻した場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
30～45分遅刻した場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
45～60分遅刻した場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
60分以上遅刻した場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	

Q 4 それでは、あなたが次のように遅刻した場合、クラブの部員はどう思うでしょうか。

あなたが ↓ クラブの部員は→	大変よいと思うだろう		一応よいと思うだろう		まあよいと思うだろう		良いとも悪いとも 思わないだろう		どちらかといえ ばまずいと思うだろう		少しまずい と思うだろう		大変まずい と思うだろう	
15分前～定刻までに来た場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
0～15分遅刻した場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
15～30分遅刻した場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
30～45分遅刻した場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
45～60分遅刻した場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
60分以上遅刻した場合	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	

Q 5 あなたのクラブの部員がクラブの練習や会合に次のように参加した場合、あなたはそれをどう思いますか。(各列の数字を○で囲んで下さい。)

クラブの部員が ↓ あなたは→	大変よいと思う		一応よいと思う		まあよいと思う		良いとも悪いとも 思わない		どちらかといえ ばまずいと思う		少しまずい と思う		大変まずい と思う	
すべてに参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
90%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
80%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
70%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
60%以下しか参加しない	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	

Q 6 それではあなたが次のように参加した場合、クラブの部員はどう思うでしょうか。

あなたが ↓ クラブの部員は→	大変よいと思うだろう		一応よいと思うだろう		まあよいと思うだろう		良いとも悪いとも 思わないだろう		どちらかといえ ばまずいと思うだろう		少しまずい と思うだろう		大変まずい と思うだろう	
すべてに参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
90%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
80%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
70%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
60%参加する	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
半分以下しか参加しない	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	

Q 7 あなたのクラブの部員がクラブの練習や会合に次のように遅刻してきた場合、あなたはそれをどう思いますか。

クラブの部員が ↓ あなたは→	大変よいと思う		一応よいと思う		まあよいと思う		良いとも悪いとも 思わない		どちらかといえ ばまずいと思う		少しまずい と思う		大変まずい と思う	
60分前～30分前	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
30分前～15分前	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
15分前～定刻	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
0～15分遅刻	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
15～30分遅刻	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
30分以上遅刻	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	

Q 8 それでは、あなたが次のように遅刻した場合、クラブの部員はどう思うでしょうか。

あなたが ↓ クラブの部員は→	大変よいと思うだろう		一応よいと思うだろう		まあよいと思うだろう		良いとも悪いとも 思わないだろう		どちらかといえ ばまずいと思うだろう		少しまずい と思うだろう		大変まずい と思うだろう	
60分前～30分前	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
30分前～15分前	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
15分前～定刻	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
0～15分遅刻	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
15～30分遅刻	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	
30分以上遅刻	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	—	7	

集団規範を尋ねた Q2 への回答は、「すべてに参加する」から「半分以下しか参加しない」まで6通りの各程度ごとに、「大変よいと思うだろう（1）」から「大変まずいと思うだろう（7）」までの7段階評定値のクラブ平均（M）と標準偏差（SD）を求めた。付録1のa-1の下段には吹奏楽部の成績上位群の6クラブについて算出されたこの平均と標準偏差（（ ）内に表示）が示されている。次に、 $M' = 4 - M$ なる変換を行って M' を求めると、 $M' > 0$ ならば是認、 $M' < 0$ ならば否認を意味する数値が得られる。いま「すべてに参加する」から「半分以下しか参加しない」までの6個の M' の絶対値の合計（ $I = \sum |M'|$ ）を求めると、このIは大きいほど、そのクラブの理想とする出席率に向かって成員たちを駆り立てる力が強いことを

表す指標（すなわち Jackson（1960）のいう intensity of a norm）となる。本稿においてはこれを「強度」と呼ぶことにする。また、これら6個の M' を絶対値に変換しないでそのまま足し合わせた値（ $D = \sum M'$ ）は Jackson（1965）が potential return difference と呼んだ規範の構造特性で、この値が正で大きいほど是認を受けやすいこと、反対に負であれば否認を受けやすいことを表す。本稿ではこれを「是—否認差」と呼ぶ。さらに、上で求めた標準偏差（SD）の合計（ $C = \sum SD$ ）は成員たちの集団規範に対する認知がどれほど一致しているかを表している。このCを「結晶度」（Jackson（1960）のいう crystallization）と呼ぶこととする。

出席に関する私的見解（Q1）に関しても、上と

同様な仕方、I, D, C の値が求められる。ただし、この場合の C は「結晶度」ではなく「一致度」と呼ぶべきであろう。

そして最後に、私的見解と集団規範の間のズレを「規範の虚構性」(F)として指標化した。すなわち、 $F = \sum |M - m|$ ただし、m は M に対応する私的見解のクラブ平均とする。

以上のような指標は、遅刻に関する私的見解 (Q3) および集団規範 (Q4) についても同様に算出できる。

吹奏楽部13クラブに関するこれらの数値は付録1に、規範の種類別、成績上位一下位群別に収録されている (ただし、M' は省略)。

洋弓部13クラブについても、同様の仕方、出席に関する私的見解 (Q5) と集団規範 (Q6) および遅刻に関する私的見解 (Q7) と集団規範 (Q8) の M, SD, M', I, D, C が算出され、付録2に収録されている (ただし、M' は省略)。

表2-1は、吹奏楽部の成績上位群と下位群における出席に関する私的見解 (m') と集団規範 (M') を、それぞれの群の中央値で代表させて比較したものであり、また表2-2は、洋弓部の成績上位群と下位群について、同様の比較を行ったものである。いずれの場合も、両群間の差の検定にはノン・パラメトリックな U-test が用いられた。

表2-1 吹奏楽部の成績上位群と下位群における
出席および遅刻に関する私的見解と集団規範 [中央値]

吹奏楽部	上位群 n=6gr's	下位群 n=7gr's	差の検定 U-test
出席に関する私的見解(m') :			
すべてに参加する	2.53	2.48	n. s.
90%参加する	1.14	1.50	p< .05
80%参加する	-.12	.68	p< .01
70%参加する	-1.17	-.48	p< .01
60%参加する	-1.87	-1.69	n. s.
半分以下しか参加しない	-2.67	-2.62	n. s.
出席に関する集団規範(M') :			
すべてに参加する	2.46	2.35	n. s.
90%参加する	1.12	1.41	p< .05
80%参加する	-.22	.58	p< .01
70%参加する	-1.36	-.77	p< .10
60%参加する	-2.14	-1.75	n. s.
半分以下しか参加しない	-2.74	-2.67	n. s.
遅刻に関する私的見解(m') :			
15分前~定刻	1.19	2.00	p< .01
0~15分遅刻	-1.59	-.33	n. s.
15~30分遅刻	-2.41	-1.75	n. s.
30~45分遅刻	-2.65	-2.38	n. s.
45~60分遅刻	-2.74	-2.62	n. s.
60分以上遅刻	-2.86	-2.68	n. s.
遅刻に関する集団規範(M') :			
15分前~定刻	.91	1.58	p< .01
0~15分遅刻	-1.82	-.41	p< .05
15~30分遅刻	-2.64	-1.81	p< .10
30~45分遅刻	-2.82	-2.31	n. s.
45~60分遅刻	-2.87	-2.50	n. s.
60分以上遅刻	-2.87	-2.62	n. s.

表 2-2 洋弓部の成績上位群と下位群における
出席および遅刻に関する私的見解と集団規範 [中央値]

洋弓部	上位群 n=6gr's	下位群 n=7gr's	差の検定 U-test
出席に関する私的見解(m') :			
すべてに参加する	2.67	2.56	n. s.
90%参加する	1.35	1.70	p< .05
80%参加する	.12	.60	n. s.
70%参加する	-.92	-.19	p< .01
60%以下しか参加しない	-2.03	-1.62	n. s.
出席に関する集団規範(M') :			
すべてに参加する	2.41	2.20	p< .05
90%参加する	1.51	1.10	n. s.
80%参加する	.34	.11	n. s.
70%参加する	-.93	-.96	n. s.
60%以下しか参加しない	-2.03	-2.14	n. s.
遅刻に関する私的見解(m') :			
60~30分前	1.84	1.88	n. s.
30~15分前	1.42	1.73	n. s.
15分前~定刻	.71	.77	n. s.
0~15分遅刻	-1.34	-1.64	p< .05
15~30分遅刻	-2.69	-2.40	n. s.
30分以上遅刻	-2.83	-2.80	n. s.
遅刻に関する集団規範(M') :			
60~30分前	1.76	1.62	n. s.
30~15分前	1.19	1.46	p< .05
15分前~定刻	.28	.79	p< .05
0~15分遅刻	-2.26	-1.72	p< .05
15~30分遅刻	-2.65	-2.59	n. s.
30分以上遅刻	-2.80	-2.68	n. s.

これらの表の意味するところを読み取るに当たっては、表中の数値をグラフ化した図 1 を併せ見るのが有益である。

図 1 上段左の (a) は、吹奏楽部における出席に関する集団規範（太線）と私的見解（細線）を成績上位群（実線）・下位群（点線）別に表したものであり、上段右の (b) は、同様に吹奏楽部における遅刻に関する集団規範と私的見解を成績上位群・下位群別に、そして下段左の (c) と下段右の (d) は、それぞれ洋弓部における出席と遅刻に関する集団規範と私的見解を表したものである。

以下、順を追って検討していくこととする。

1. 吹奏楽部における出席に関する規範

図 1 の (a) によれば、上位群の規範は90%以上

参加（＝出席）を是認し、80%以下の出席を否認しているのに対して、下位群の規範は80%以上の出席を是認し、70%以下の出席を否認している。両群間の差は、90%参加点において p<.05 水準で、80%参加点において p<.01 水準で、また70%参加点において p<.10 水準で統計的に有意である（表 2-1）。このことは、次の表 3（左半分）にみられる是-否認差が上位群において相対的に大きな負の値を示していること（両群間の差は5%水準で有意）ことと合わせて、上位群の規範が下位群よりも厳しいことを示している。同様の関係が私的見解についても認められる。図 1 の (a) に見られるごとく、両群の出席に関する私的見解はそれぞれの集団規範と近似しており、90%参加点、80%参加点および70%参加点で統計的に有意

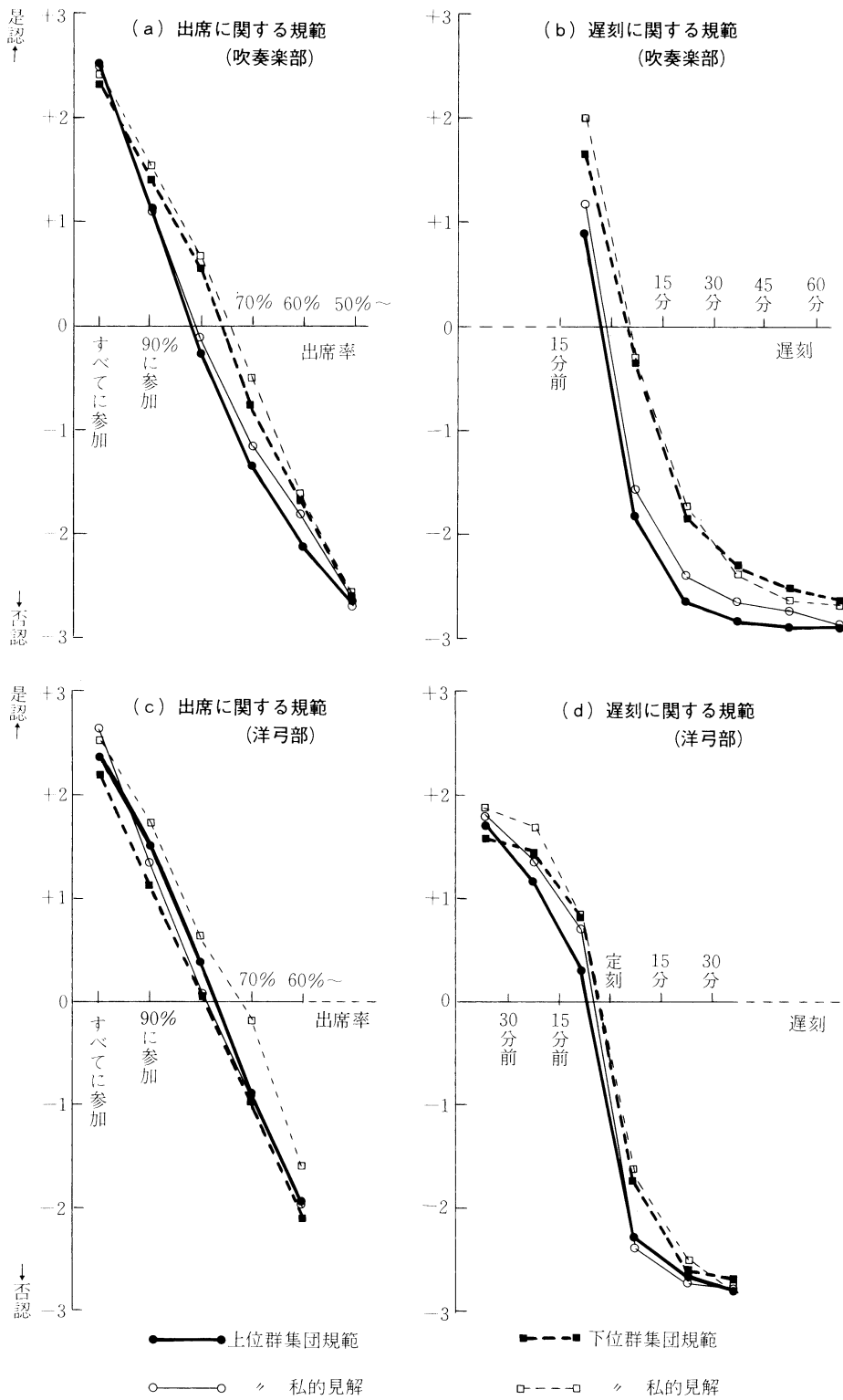


図1 吹奏楽部および洋弓部における出席と遅刻に関する集団規範と私的見解：成績上位群 vs. 下位群

表 3 出席に関する規範の構造特性：成績上位群と下位群の比較 [中央値]

構造特性	吹 奏 楽 部			洋 弓 部		
	上位群	下位群	差の検定	上位群	下位群	差の検定
	n=6gr's	n=7gr's	U-test	n=6gr's	n=7gr's	U-test
集団規範：						
強度(I)	10.08	9.58	n. s.	6.99	6.50	p< .01
是-否認差(D)	-2.66	-0.50	p< .05	+1.06	0.00	n. s.
結晶度(C)	7.99	6.88	p< .01	6.90	6.61	n. s.
虚構性(F)	.84	1.29	n. s.	.80	2.31	n. s.
私的見解：						
強度(I)	9.59	9.29	n. s.	6.86	7.19	n. s.
是-否認差(D)	-2.32	-0.34	p< .05	+0.93	+2.31	n. s.
一致度(C)	7.76	6.88	p< .05	6.81	5.64	n. s.

表 4 遅刻に関する規範の構造特性：成績上位群と下位群の比較 [中央値]

構造特性	吹 奏 楽 部			洋 弓 部		
	上位群	下位群	差の検定	上位群	下位群	差の検定
	n=6gr's	n=7gr's	U-test	n=6gr's	n=7gr's	U-test
集団規範：						
強度(I)	14.05	11.00	n. s.	11.14	10.46	n. s.
是-否認差(D)	-12.16	-8.12	p< .01	-4.75	-4.07	n. s.
結晶度(C)	5.07	6.91	n. s.	6.34	5.33	n. s.
虚構性(F)	1.40	1.42	n. s.	1.22	1.38	n. s.
私的見解：						
強度(I)	13.47	12.23	n. s.	11.66	11.25	n. s.
是-否認差(D)	-11.05	-7.66	p< .05	-3.94	-2.50	n. s.
一致度(C)	6.07	6.51	n. s.	6.42	5.46	n. s.

な差を示している。私的見解と集団規範とのズレ、すなわち規範の虚構性は、上位群で0.84、下位群で1.29と、後者でいくぶん大きいかに見えるが、この差は統計的に有意ではない。集団規範の結晶度と私的見解の一致度は、いずれも下位群の方が上位群よりも有意に高い（SDの和：値が小さいほど一致度、結晶度は高い）。

2. 吹奏楽部における遅刻に関する規範

図1の(b)によれば、成績上位群は下位群に比べ、遅刻に関して著しく厳しい集団規範をもっていることがわかる。15分前～定刻の到着、0～15分の遅刻について、それぞれ $p<.01$ 、 $p<.05$ 、 $p<.10$ 水準で両群間に有意な差がみとめられている。また、表4（左半分）によれば、集団規範と私的見解ともに、是-否認差は上位群において下位群にお

けるよりも、負の有意に大きな値を示している。

3. 洋弓部における出席に関する規範

洋弓部のデータに移ろう。図1の(c)は、上位群が下位群よりも厳しい私的見解をもちながらも、規範にはさほど差異を見せていないことを示している。私的見解では90%参加点と70%参加点で両群間有意差がみられるが、集団規範で有意差が見られるのは「すべてに参加する」すなわち100%参加点においてのみである（表2-2）。100%参加に対して上位群の方が相対的に大きな是認を与えていることは、成員たちの皆出席を推奨する力が大きいという意味で規範の強度が大きいことを予想させる（表3に見られるごとくこの強度差は統計的有意水準に達している。）が、両群の規範は低い出席率を否認するという点ではほとんど差

異を見せていない。

なお、図1の(c)で見る限り、集団規範と私的見解のズレ、すなわち規範の虚構性についてみると、上位群においてこれが極めて小さいのに、下位群においてはかなり大きいことが注目されるが、両群とも群内変動が大きく群間には有意差が認められない。

4. 洋弓部における遅刻に関する規範

図1の(d)は洋弓部の成績上位群と下位群における遅刻に関する集団規範と私的見解とを表している。一見して上位群の方が下位群より厳しい規範をもっていることがわかる。表2-2によれば、「30分前～15分前」「15分まえ～定刻」および「0～15分遅刻」の3点で両群間に有意差が認められる。両群の私的見解にはこれほどの差異は見られず、わずかに「0～15分遅刻」の点でのみ有意差が認められた。

表4の示すところによれば、規範の強度や一否認差のような規範の厳しさとかかわる構造特性の値は、いずれも上位群の方が下位群より厳しいことを示唆する方向にあるが、その差はいずれも有意水準に達していないことを示している。その他の構造特性、規範の結晶度や虚構性にも有意な群間差は認められていない。私的見解に関する諸指標にも有意差は見られていない。

5. 出席に関する規範：吹奏楽部の場合と洋弓部の場合

われわれの仮説2は、吹奏楽部のようなハーモニーを産み出すための一斉練習が欠かせないクラブ活動では、洋弓部のような主として個人成績の合計で集団の成績が決まるクラブ活動に比べて、より厳格な出席および遅刻に関する集団規範が形成されているであろうことを予想している。以下順を追ってこのことを検討してみよう。

表5は、出席に関する集団規範についてこのことをみるために用意されたものである。出席に関する集団規範を訊いた質問は、吹奏楽部の場合(Q2)と洋弓部の場合(Q6)とで設定した出席率の範囲に若干の差異があったことは、すでに方法の項で述べた通りである(私的見解についてはQ1とQ5)。表5は、その共通する範囲、すなわち「すべてに参加する」から「60%以下参加する」までについて、上位群—下位群間の差を吹奏楽部の場合と洋弓部の場合との間で比較できるようにしたものである。なお、その際厳密に言えば、吹奏楽部では「60%参加する」という表現を用い、洋弓部では「60%以下しか参加しない」という表現を用いているから、両者はまったく同じではない。しかし、比較はそれぞれのクラブの上位群—下位群間の差についてなされるので、その影響は間接的なものとなっている。

表5 吹奏楽部と洋弓部における出席に関する私的見解と集団規範 [中央値]

	吹奏楽部			洋弓部		
	上位群 n=6gr's	下位群 n=7gr's	差 U-test	上位群 n=6gr's	下位群 n=7gr's	差 U-test
私的見解：						
すべてに参加する	2.53	2.48	.05	2.67	2.56	.11
90%参加する	1.14	1.50	.36*	1.35	1.70	.35*
80%参加する	-.12	.68	.80**	.12	.60	.48
70%参加する	-1.17	-.48	.69**	-.92	-.19	.73**
60%以下参加する	-1.87	-1.69	.18	-2.03	-1.62	.41
集団規範：						
すべてに参加する	2.46	2.35	.11	2.41	2.20	.21*
90%参加する	1.12	1.41	.29*	1.51	1.10	.41
80%参加する	-.22	.58	.80*	.34	.11	.23
70%参加する	-1.36	-.77	.59(*)	-.93	-.96	.03
60%以下参加する	-2.14	-1.75	.39	-2.03	-2.14	.11

|差|の有意性の検定：** p<.01, * p<.05, (＊) p<.10

表5は、すでに図1の(a)と(c)の比較において明らかなことを、数量的に再確認している。吹奏楽部においては上位群一下位群間に大幅で明確な差異が見られるのに、洋弓部では上位群一下位群間の差異が小幅であって有意差ありといえるのは「すべてに参加する」ことに対する是認の程度だけであった。私的見解についても同様な関係がみられるが、両クラブ間での違いは集団規範の場合ほど顕著ではない。

6. 遅刻に関する集団規範：吹奏楽部の場合と洋弓部の場合

表6は、遅刻に関する集団規範（および私的見解）にみられる上位群一下位群間の差を、吹奏楽部の場合と洋弓部の場合とで比較したものである。吹奏楽部調査に用いられた質問（Q4）では「15分前～定刻」から「60分以上遅刻」まで（私的見解を訊いたQ3も同様）について訊いているのに対し、洋弓部調査（Q8）では「60分前～30分前」から「30分以上遅刻」までについて訊いている（私的見解をきいたQ7も同様）。両者に共通するのは「15分前～定刻」から「30分～45分遅刻」までである。ここでも洋弓部での「30～45分遅刻」と吹奏楽部での「30分以上遅刻」の間には微妙なニュアンスの違いがある。しかし、上で述べたと同様の理由により、ここでは敢えて問題とはしない。

表6もまた、図1の(b)と(d)についてすでに読み取った関係を、改めて数量的に再確認している。すなわち、吹奏楽部の場合も洋弓部の場合も成績上位群の方が下位群よりも遅刻に関してより厳しい規範を形成しているが、その上位群一下位群間の差は吹奏楽部において洋弓部におけるよりも大きく顕著である。私的見解についても同様な関係がみられるが、両クラブ間での違いは集団規範の場合ほどには顕著でない。

考察と結論

まず、上で見てきた諸結果を、ここで改めてわれわれの仮説と関係させて整理しておこう。

仮説1：成績上位群は成績下位群よりも厳しい参加規範をもっているであろう。

ここで参加規範とは、出席に関する規範と遅刻に関する規範の総称である。吹奏楽部の場合には出席・遅刻いずれに関してもかなり明瞭に成績上位群の方が下位群より厳しい規範をもっていることが判明した。洋弓部の場合遅刻に関する規範については問題なく成績上位群において下位群より厳しいといえるが、出席に関する規範ではこの点が必ずしも明確ではなかった。ただ、100%の出席に対して上位群では下位群よりも有意に大きな是認を与えていたこと、したがって100%の出席を推奨する集団圧力（規範の強度）が有意に大きい

表 6 吹奏楽部と洋弓部における遅刻に関する私的見解と集団規範 [中央値]

	吹奏楽部			洋弓部		
	上位群 n=6gr's	下位群 n=7gr's	差 U-test	上位群 n=6gr's	下位群 n=7gr's	差 U-test
私的見解：						
15分前～定刻	1.19	2.00	.81**	.71	.77	.06
0～15分遅刻	-1.59	-.33	1.26	-1.34	-1.64	.30*
15～30分遅刻	-2.41	-1.75	.66	-2.69	-2.40	.29
30～45分遅刻	-2.65	-2.38	.27	-2.83	-2.80	.03
集団規範：						
15分前～定刻	.91	1.58	.67**	.28	.79	.51*
0～15分遅刻	-1.82	-.41	1.41*	-2.26	-1.72	.54*
15～30分遅刻	-2.64	-1.81	.83(*)	-2.65	-2.59	.06
30～45分遅刻	-2.82	-2.31	.51	-2.80	-2.68	.12

|差|の有意性の検定：** p<.01, * p<.05, (*) p<.10

と考えられる点で、間接的にこの仮説1を支持しているとみることができよう。

本研究で用いた方法によっては、厳しい参加規範と集団の成績との因果関係を確定することができない。しかしながら、厳しい参加規範はクラブの活動（その大部分は練習）への成員たちの参加を促進するから、より多くの練習時間が確保され、それが成績の向上をもたらすであろうとの解釈は十分可能である。

仮説2：集団の成績が成員間の相互作用（いわゆる連携プレイ）に依存する程度が高いほど、参加規範と集団成績との関係は緊密になるであろう。

吹奏楽部の方が洋弓部よりも集団の成績が成員間の相互作用に依存する程度が高いとの前提に立って行われた比較検討によって、この仮説も明瞭に支持された。すなわち、出席に関する規範においても遅刻に関する規範においても、上位群一下位群間の差異は吹奏楽部の場合に、洋弓部の場合よりも、顕著であった。吹奏楽部のようにハーモニーを産み出すための一斉練習が欠かさないクラブ活動では、洋弓部のような主として個人成績の合計で集団の成績が決まるクラブ活動に比べて、より厳格な出席や遅刻に関する集団規範をもつことが優れた成績をあげる上で一層重要になってくると解釈される。

ここで、吹奏楽部は13校が上位の6校と下位の7校に二分されているのに対し、洋弓部は19校中の上位6校と下位7校とが選ばれ、中位の6校が除かれていることに注意しなければならない。中位6校が除かれているということは、洋弓部の場合いっそう上位群一下位群間の差異が現れやすいことを意味する。にもかかわらず、吹奏楽部の場合に見られた差異よりも小さな差異しか現れなかったのである。吹奏楽部と洋弓部の間の違いは、上のデータに示された以上に大きいものであったとみるべきであろう。

表3と表4に示された規範の構造特性についてみておこう。まず規範の強度（I）をそれぞれの上位群と下位群で比較すると、統計的有意差がみられたのは洋弓部の出席に関する規範だけであるが、他の3つの比較についても上位群の方が下位群より一貫して大きい値を示している。このこと

は上位群の規範の方が是認すべき行動と否認すべき行動とをより厳しく峻別していることを意味していて、上で見た規範の厳しさにおける群間差を裏付けている。規範の虚構性もまた、有意水準には達していないものの、上位群の方が一貫して小さい値を示している。このことは集団規範と私的見解とのズレが小さいこと、つまり集団の規範が成員たちの私的見解によってよりよく支持されていることを表している。もちろん、統計的有意差の認められないデータについて断定的な議論をすることは許されないが、今後さらに多くのデータが蓄積されてゆくなかで、将来検討すべき作業仮説となるであろう。

私的見解のデータについて少し検討しておこう。私的見解がそれぞれの集団規範に寄り添っていること、そしてその寄り添い方は上位群において下位群におけるよりも密接であることは、すでに虚構性について上で見た通りである。さらに、私的見解の是—否認差にも、上位群<下位群という関係が一貫して見られる。これらのうち吹奏楽部の出席と遅刻に関しては共に有意差がみとめられているが、洋弓部では出席に関しては遅刻に関しても有意水準には達していない。これは集団規範について見られた仮説通りの関係とよく符号している。

結論として、われわれの二つの仮説すなわち[仮説1]成績上位群は成績下位群よりも厳しい参加規範（出席および遅刻に関する規範の総称）をもっているであろう、および[仮説2]集団の成績が成員間の相互作用（いわゆる連携プレイ）に依存する程度が高いほど、参加規範と集団成績との関係は緊密になるであろう、は共に検証されたといえるであろう。私的見解も集団規範とほぼ同様の関係を示すが、上位群の方が集団規範により近く寄り添っており、その意味で規範の虚構性を小さなものにしている。

要 約

関西学生吹奏楽連盟に加盟する13校の吹奏楽部と関西学生アーチェリー連盟に加盟する23校中女子のみの4校を除く19校の洋弓部について質問紙調査を行い、それぞれコンクールの成績（連盟役

員の評定をも参考にして)と春期リーグ戦の成績に基づいて成績上位群6校と下位群7校とを選び出し、出席および遅刻に関する集団規範(および私的見解)の群間比較を行った。検討された仮説は次の二つである。仮説1:成績上位群は成績下位群よりも厳しい参加規範(出席および遅刻に関する規範の総称)をもっているであろう。仮説2:集団の成績が成員間の相互作用(いわゆる連携プレイ)に依存する程度が高いほど、参加規範と集団成績との関係は緊密になるであろう。吹奏楽部の方が洋弓部よりも集団の成績が成員間の相互作用の質に依存する程度が高いとの前提のもとに、いずれの仮説も検証された。

文 献

- Berkowitz, L. (1954) Group standards, cohesiveness and productivity. *Hum. Relat.*, 7, 509-519.
- Coch, L. & French, J. R. P., Jr. (1948) Overcoming resistance to change. *Hnm. Relat.*, 1, 512-532. Also in D. Cartwright & A. Zander (Eds.) 1960 *Group Dynamics: Research and theory*, 2nd ed. New York; Harper & Row. pp. 319-341. 新村豊・佐々木薫訳 1969 変化に対する抵抗の克服 カートライト・ザンダー編/三隅二不二・佐々木薫訳編「グループ・ダイナミックス」第2版Ⅰ 誠信書房 pp. 383-407.
- Jackson, J. M. (1960) Structural characteristics of norms. In G. E. Jensen (Ed.) *Dynamics of Instructional Groups*. Univ. of Chicago Press. 末吉梯次・古賀徳男・森しげる訳 1967 「学習集団の力学」 黎明書房
- Jackson, J. M. (1965) Structural characteristics of norms. In I. D. Steiner & M. Fishbein (Eds.) *Current Studies in Social Psychology*. Holt, Rinehart & Winston. pp. 301-109. 香山健一訳 1970 規範の構造的特質 田中靖政訳編「現代アメリカ社会心理学」 日本評論社 pp. 48-61.
- Maeda, H. (1968) Group cohesiveness, conflicting induction, and productivity 名古屋大学文学部 20 周年記念論集 pp. 147-172.
- 前田恒・小嶋外弘・野間健三 (1960) 集団の凝集力と生産性に関する実験的研究 (Ⅰ): Member attractiveness を操作した場合について 教社心研 1 (2), 164-173.
- 前田恒・小嶋外弘・中島貞夫 (1962) 集団の凝集力と生産性に関する実験的研究 (Ⅱ): Group status を操作した場合について 教社心研 3 (1), 39-50.
- Roethlisberger, F. J., & Dickson, W. J. (1939) *Management and the Worker*. Harvard Univ. Press.
- 佐々木薫 (1963) 集団規範の研究: 概念の展開と方法論的吟味 教社心研 4 (1), 21-41.
- 佐々木薫 (1981) 集団規範の変化に関する研究 三隅二不二・木下富雄 (編)「現代社会心理学の発展」 ナカニシヤ出版 pp. 151-178.
- 佐々木薫 (1994a) 欠勤に関する職場規範の調査研究 関西学院大学社会学部紀要 70, 71-88.
- 佐々木薫 (1994b) 欠勤および遅刻に関する職場規範の調査研究: 都市消防の事例研究 関西学院大学社会学部紀要 71, 45-68.
- 佐々木薫・山口真人 (1971) リーダーシップ・タイプが集団規範の形成におよぼす効果の実験的研究 関西学院大学社会学部紀要 22, 209-226.
- Schachter, S., Ellertson, N., McBride, D. & Gregory, D. (1951) An experimental study of cohesiveness and productivity. *Hum. Relat.*, 4, 229-238. Also in D. Cartwright & A. Zander (Eds.) 1960 *Group Dynamics: Research and theory*, 2nd ed. New York; Harper & Row. pp. 152-162. 金子信光・佐々木薫訳 1969 凝集性と生産性に関する実験的研究 カートライト・ザンダー編/三隅二不二・佐々木薫訳編「グループ・ダイナミックス」第2版Ⅰ 誠信書房 pp. 183-194.

付録 1 吹奏楽部データ

a-1 出席に関する規範：成績上位群

クラブ		A	B	C	D	E	F
回答票数/在籍者数		51/63	38/44	37/37	35/39	28/31	39/42
私的見解	すべてに参加する	1.55(1.18)	1.66(1.22)	1.35(.85)	1.40(.83)	1.54(1.09)	1.32(.76)
	90%参加する	2.75(1.47)	3.45(1.79)	2.65(1.49)	2.97(1.68)	2.57(1.50)	3.24(1.81)
	80%参加する	4.08(1.70)	4.39(1.71)	3.54(1.31)	4.23(1.61)	3.54(1.76)	4.16(1.69)
	70%参加する	5.28(1.52)	5.05(1.78)	4.65(1.42)	5.89(1.28)	4.89(1.61)	5.34(1.46)
	60%参加する	5.98(1.42)	5.66(1.59)	5.46(1.39)	6.31(1.14)	5.75(1.15)	6.08(1.13)
	半分以上しか参加しない	6.50(1.30)	6.29(1.39)	6.70(.51)	6.77(.90)	6.64(.97)	6.97(.16)
強度(I)		9.54	8.28	9.27	10.83	9.63	9.99
是-否認差(D)		-2.14	-2.50	-0.35	-3.57	-0.93	-3.11
一致度(C)		8.59	9.48	6.97	7.44	8.08	7.01
集団規範	すべてに参加する	1.54(1.17)	1.79(1.26)	1.59(1.26)	1.34(.86)	1.54(1.02)	1.49(.92)
	90%参加する	2.98(1.73)	3.29(1.86)	2.76(1.57)	2.77(1.55)	2.71(1.71)	3.14(1.51)
	80%参加する	4.20(1.62)	4.32(1.70)	3.76(1.58)	4.23(1.82)	3.93(1.65)	4.32(1.73)
	70%参加する	5.56(1.34)	5.45(1.46)	4.57(1.60)	5.94(1.43)	4.96(1.57)	5.27(1.54)
	60%参加する	6.19(1.17)	6.13(1.13)	5.49(1.44)	6.49(1.00)	5.75(1.27)	6.14(1.07)
	半分以上しか参加しない	6.71(.87)	6.76(.74)	6.44(1.19)	6.83(.56)	6.57(.86)	6.92(.36)
強度(I)		10.14	11.18	8.39	11.38	9.10	10.02
是-否認差(D)		-3.18	-2.14	-0.61	-3.60	-1.46	-3.28
一致度(C)		7.90	8.15	8.64	7.22	8.08	7.13
規範の虚構性(F)		1.06	1.70	.94	.55	.74	.61

a-2 出席に関する規範：成績下位群

クラブ		G	H	I	J	K	L	M
回答票数/在籍者数		27/32	18/30	24/35	24/31	25/33	9/17	12/17
私的見解	すべてに参加する	1.31(.72)	1.56(.96)	2.04(1.72)	1.92(1.32)	1.52(.85)	1.11(.31)	1.42(.64)
	90%参加する	2.67(1.25)	2.50(.94)	2.87(1.79)	2.00(.76)	2.40(1.17)	2.56(1.26)	2.00(.82)
	80%参加する	3.54(1.47)	3.56(1.50)	3.42(1.61)	2.96(1.27)	3.32(1.54)	3.11(1.10)	2.67(.94)
	70%参加する	4.65(1.59)	4.56(1.54)	4.42(1.47)	4.46(1.41)	4.48(1.63)	4.67(.82)	3.25(1.36)
	60%参加する	5.69(1.17)	5.73(1.24)	5.17(1.49)	5.71(1.10)	5.56(1.44)	5.78(1.03)	4.17(1.67)
	半分以上しか参加しない	6.70(.60)	6.62(.70)	6.25(1.36)	6.71(.84)	6.36(1.23)	7.00(.00)	6.00(1.47)
強度(I)		9.52	9.29	7.51	10.00	9.16	10.67	8.83
是-否認差(D)		-0.56	-0.53	-0.17	+ .24	-0.34	-0.23	-4.49
一致度(C)		6.80	6.88	9.44	6.70	7.86	4.52	6.90
集団規範	すべてに参加する	1.65(.96)	2.11(1.24)	1.74(1.19)	1.88(1.42)	1.33(.55)	1.56(.96)	1.50(.76)
	90%参加する	2.85(1.33)	2.69(1.16)	2.59(1.47)	2.17(.94)	2.37(1.15)	2.78(1.62)	1.83(.90)
	80%参加する	4.08(1.47)	3.69(1.49)	3.19(1.22)	3.17(1.07)	3.42(1.38)	3.56(1.50)	2.25(.92)
	70%参加する	4.77(1.53)	5.06(1.64)	4.27(1.25)	4.21(1.19)	4.92(1.73)	5.33(1.49)	3.42(1.04)
	60%参加する	5.69(1.23)	6.40(.80)	5.23(1.51)	5.88(1.17)	5.75(1.39)	6.33(.94)	4.42(1.11)
	半分以上しか参加しない	6.59(.73)	6.76(.55)	6.45(.78)	6.71(.89)	6.71(.68)	6.67(.94)	5.83(1.52)
強度(I)		8.63	9.73	8.43	9.58	10.26	10.43	9.25
是-否認差(D)		-1.63	-2.71	+0.53	-0.02	-0.50	-2.23	4.75
結晶度(C)		7.25	6.88	7.42	6.68	6.88	7.45	6.25
規範の虚構性(F)		1.29	2.18	1.22	.84	1.30	2.66	1.26

b-1 遅刻に関する規範：成績上位群

クラブ		A	B	C	D	E	F
回答票数/在籍者数		51/63	38/44	37/37	35/39	28/31	39/42
私 的 見 解	15分前～定刻	3.25(1.88)	2.55(1.62)	3.57(2.20)	2.29(1.78)	3.07(1.77)	2.45(1.50)
	0～15分遅刻	5.59(1.60)	5.84(1.23)	5.59(1.53)	5.77(1.35)	5.54(1.27)	5.50(1.41)
	15～30分遅刻	6.25(1.23)	6.37(.96)	5.95(1.25)	6.54(.87)	6.57(.82)	6.45(.97)
	30～45分遅刻	6.47(1.11)	6.58(.85)	6.46(1.03)	6.82(.57)	6.71(.80)	6.79(.61)
	45～60分遅刻	6.53(1.11)	6.61(.84)	6.65(.94)	6.86(.54)	6.82(.54)	6.87(.52)
	60分以上遅刻	6.59(1.03)	6.65(.85)	6.94(.23)	6.86(.54)	6.86(.58)	6.89(.50)
	強度(I)	12.18	13.50	12.02	14.56	13.43	14.05
是—否認差(D)		−10.68	−10.60	−11.16	−11.14	−11.57	−10.95
—致度(C)		7.96	6.35	7.18	5.65	5.78	5.51
集 団 規 範	15分前～定刻	3.46(1.84)	2.79(1.64)	3.14(2.22)	2.49(1.79)	3.46(1.74)	3.03(1.50)
	0～15分遅刻	6.26(1.02)	6.29(1.17)	5.05(1.87)	5.74(1.54)	5.43(1.52)	5.89(1.39)
	15～30分遅刻	6.70(.64)	6.63(.74)	5.76(1.62)	6.80(.47)	6.64(.67)	6.61(.81)
	30～45分遅刻	6.84(.54)	6.82(.45)	6.22(1.42)	6.97(.17)	6.82(.47)	6.82(.51)
	45～60分遅刻	6.86(.53)	6.87(.41)	6.38(1.38)	7.00(.00)	6.93(.26)	6.87(.41)
	60分以上遅刻	6.86(.53)	6.82(.72)	6.51(1.43)	7.00(.00)	7.00(.00)	6.87(.41)
	強度(I)	14.06	14.64	10.78	15.02	13.36	14.03
是—否認差(D)		−12.98	−12.22	−9.06	−12.00	−12.28	−12.09
—致度(C)		5.10	5.13	9.94	3.97	4.66	5.03
規範の虚構性(F)		2.30	1.62	2.10	.92	.93	1.18

b-2 遅刻に関する規範：成績下位群

クラブ		G	H	I	J	K	L	M
回答票数/在籍者数		27/32	18/30	24/35	24/31	25/33	9/17	12/17
私 的 見 解	15分前～定刻	1.78(1.10)	1.39(.76)	2.00(1.44)	2.04(1.49)	2.32(1.64)	2.11(1.37)	2.00(1.15)
	0～15分遅刻	3.52(1.40)	4.24(1.70)	4.33(1.60)	5.96(1.34)	5.16(1.64)	5.89(1.29)	4.00(1.47)
	15～30分遅刻	4.62(1.42)	5.63(1.69)	5.75(1.33)	6.71(.68)	6.16(1.08)	6.44(.83)	5.33(1.31)
	30～45分遅刻	5.59(.99)	6.31(.98)	6.38(.99)	6.92(.40)	6.52(1.02)	6.78(.63)	5.92(1.26)
	45～60分遅刻	6.07(.81)	6.62(.70)	6.58(.81)	7.00(.00)	6.62(.99)	6.89(.31)	5.92(1.26)
	60分以上遅刻	6.44(.79)	6.82(.51)	6.62(.81)	7.00(.00)	6.68(.97)	7.00(.00)	6.25(.92)
	強度(I)	9.42	12.23	11.66	15.55	12.82	14.89	9.42
是—否認差(D)		−4.02	−7.01	−7.66	−11.63	−9.46	−11.11	−5.42
—致度(C)		6.51	6.34	6.98	3.91	7.34	4.43	7.37
集 団 規 範	15分前～定刻	2.15(1.21)	2.56(1.34)	2.17(1.34)	2.42(1.61)	2.75(1.61)	2.67(1.33)	2.17(1.57)
	0～15分遅刻	3.37(1.13)	4.41(1.78)	4.09(1.38)	5.54(1.38)	5.29(1.57)	5.67(1.15)	4.08(1.55)
	15～30分遅刻	4.85(1.43)	5.81(1.63)	5.35(1.40)	6.88(.33)	6.21(1.22)	6.78(.42)	5.00(1.78)
	30～45分遅刻	5.69(1.10)	6.31(1.16)	6.00(1.14)	6.96(.20)	6.42(1.19)	7.00(.00)	5.75(1.42)
	45～60分遅刻	6.38(.56)	6.50(.87)	6.43(.88)	6.96(.20)	6.54(1.04)	7.00(.00)	6.42(1.19)
	60分以上遅刻	6.70(.53)	6.53(.78)	6.61(.77)	6.96(.20)	6.62(.90)	7.00(.00)	6.58(.95)
	強度(I)	10.10	11.00	10.31	14.88	12.33	14.78	9.66
是—否認差(D)		−5.14	−8.12	−6.91	−11.72	−9.83	−12.12	−6.00
—致度(C)		5.96	7.56	7.42	3.92	7.53	2.90	8.46
規範の虚構性(F)		1.42	1.93	1.35	1.09	.95	1.45	1.58

付録2 洋弓部データ

a-1 出席に関する規範：成績上位群

クラブ		a	b	c	d	e	f
回答票数/在籍者数		11/28	30/53	25/34	20/39	23/40	20/34
私 的 見 解	すべてに参加する	1.00(.00)	1.39(.98)	1.17(.37)	1.67(1.33)	1.45(1.03)	1.37(.74)
	90%参加する	2.55(1.72)	2.96(1.74)	2.42(.86)	2.61(1.30)	2.68(1.36)	2.74(1.16)
	80%参加する	4.00(1.86)	4.21(1.82)	3.54(1.08)	3.33(1.49)	3.95(1.80)	4.00(1.30)
	70%参加する	4.91(1.73)	4.93(1.89)	4.83(1.25)	4.11(1.88)	4.95(1.58)	5.26(1.55)
	60%以下しか参加しない	6.64(1.15)	6.07(1.49)	6.26(1.15)	6.06(1.22)	6.00(1.38)	6.00(1.56)
	強度(I)	8.00	6.86	7.97	6.56	6.86	7.16
	是-否認差(D)	+0.91	+0.43	+1.78	+2.22	+0.95	+0.63
	一程度(C)	6.46	7.91	4.71	7.23	7.15	6.31
	すべてに参加する	1.45(.89)	1.32(.66)	1.58(1.29)	1.67(1.49)	1.75(1.30)	1.79(1.40)
集 団 規 範	90%参加する	2.91(2.02)	2.32(1.23)	2.54(.96)	2.39(1.46)	2.80(1.44)	2.68(1.08)
	80%参加する	4.18(1.99)	3.75(1.72)	3.46(1.12)	3.50(1.46)	3.70(1.52)	3.89(1.17)
	70%参加する	5.36(1.87)	4.43(1.61)	4.91(1.02)	4.39(1.60)	4.95(1.60)	5.32(1.38)
	60%以下しか参加しない	6.50(1.02)	5.89(1.29)	6.33(.85)	5.94(1.27)	5.85(1.46)	6.11(1.33)
	強度(I)	7.68	6.93	7.66	6.78	6.55	7.05
	是-否認差(D)	-0.41	+2.29	+1.17	+2.11	+0.95	+0.21
	結晶度(C)	7.80	6.51	5.23	7.28	7.31	6.35
	規範の虚構性(F)	1.59	1.86	.78	.78	.82	.74

a-2 出席に関する規範：成績下位群

クラブ		g	h	i	j	k	l	m
回答票数/在籍者数		15/43	8/24	16/31	14/26	14/33	12/16	8/24
私 的 見 解	すべてに参加する	1.50(.96)	1.50(1.12)	1.38(.60)	1.92(1.21)	1.21(.41)	1.14(.35)	1.63(.99)
	90%参加する	2.00(.82)	4.00(2.24)	2.44(.61)	2.38(1.08)	2.07(1.03)	2.21(.86)	2.75(1.48)
	80%参加する	2.67(.75)	4.50(1.80)	3.44(1.17)	3.23(.80)	3.36(1.59)	3.36(1.44)	3.38(1.49)
	70%参加する	3.33(1.03)	5.00(1.53)	4.69(1.31)	4.23(1.12)	4.71(1.58)	4.43(1.76)	4.50(1.50)
	60%以下しか参加しない	4.83(1.21)	6.17(1.07)	5.75(1.30)	5.31(1.43)	6.43(.73)	5.93(1.75)	5.50(1.32)
	強度(I)	7.33	6.15	7.19	6.00	8.50	7.64	6.25
	是—否認差(D)	+5.67	−1.17	+2.31	+2.92	+2.21	+2.93	+2.25
	一致度(C)	4.76	7.75	4.99	5.64	5.34	6.17	6.79
集 団 規 範	すべてに参加する	1.75(1.01)	2.50(1.50)	1.75(1.15)	1.69(.99)	1.93(1.10)	1.86(1.19)	2.13(1.27)
	90%参加する	2.17(.99)	4.00(1.73)	3.00(1.27)	2.23(1.12)	2.79(1.15)	3.21(1.61)	3.50(1.41)
	80%参加する	2.83(1.21)	5.17(1.57)	4.06(1.39)	3.46(1.65)	3.71(1.48)	4.29(1.48)	4.50(1.66)
	70%参加する	3.42(1.11)	5.83(1.34)	5.13(1.32)	4.23(1.72)	4.71(1.62)	5.21(1.15)	5.13(1.27)
	60%以下しか参加しない	4.83(1.62)	6.50(1.12)	6.06(1.03)	5.23(2.01)	6.21(1.47)	6.36(.81)	6.00(1.00)
	強度(I)	6.67	7.00	6.50	6.08	6.50	6.79	6.00
	是—否認差(D)	+5.00	−4.00	0.00	+3.15	+0.64	−0.93	−1.25
	結晶度(C)	5.95	7.27	6.16	7.48	6.82	6.24	6.61
規範の虚構性(F)		.67	2.83	2.31	.69	2.00	3.86	3.50

b-1 遅刻に関する規範：成績上位群

クラブ		a	b	c	d	e	f
回答票数/在籍者数		11/28	30/53	25/34	20/39	23/40	20/34
私 的 見 解	60～30分前	1.27(.62)	2.63(1.52)	2.88(1.24)	2.21(1.20)	1.43(.92)	2.10(1.64)
	30～15分前	2.36(.98)	2.50(1.59)	2.88(.95)	2.16(1.27)	2.65(1.13)	2.85(1.19)
	15分前～定刻	3.82(1.19)	3.47(1.59)	2.96(1.22)	2.79(1.44)	4.26(1.65)	3.60(.73)
	0～15分遅刻	6.63(.70)	6.57(.80)	5.64(1.09)	5.79(1.40)	6.57(.82)	6.10(1.04)
	15～30分遅刻	6.89(.31)	6.83(.64)	6.32(.97)	6.42(1.04)	6.91(.41)	6.55(1.12)
	30分以上遅刻	7.00(.00)	6.83(.64)	6.75(.60)	6.63(1.18)	6.96(.20)	6.70(1.31)
強度(I)		13.06	11.63	9.99	11.68	12.61	10.80
是—否認差(D)		−3.97	−4.83	−3.43	−2.00	−4.78	−3.90
—致度(C)		3.80	6.77	6.07	7.52	5.14	7.04
集 団 規 範	60～30分前	1.91(1.16)	2.77(1.58)	2.76(1.27)	2.42(1.35)	1.87(1.30)	2.05(1.40)
	30～15分前	2.82(1.03)	2.87(1.41)	2.88(.99)	2.47(1.35)	2.87(1.15)	2.80(1.21)
	15分前～定刻	3.91(1.08)	3.63(1.49)	3.08(1.06)	3.05(1.57)	4.13(1.54)	3.80(1.12)
	0～15分遅刻	6.73(.45)	6.17(1.24)	5.76(.91)	5.95(1.39)	6.35(1.20)	6.35(1.06)
	15～30分遅刻	7.00(.00)	6.60(.80)	6.44(.75)	6.37(1.09)	6.70(1.04)	6.80(.40)
	30分以上遅刻	7.00(.00)	6.80(.60)	6.80(.57)	6.68(.80)	6.78(1.02)	7.00(.00)
強度(I)		12.09	10.30	10.28	11.05	11.22	11.50
是—否認差(D)		−5.36	−4.83	−3.72	−2.95	−4.77	−4.80
—致度(C)		3.72	7.13	5.55	7.55	7.25	5.19
規範の虚構性(F)		1.40	1.33	.53	1.05	1.39	1.10

b-2 遅刻に関する規範：成績下位群

クラブ		g	h	i	j	k	l	m
回答票数/在籍者数		15/43	8/24	16/31	14/26	14/33	12/16	8/24
私 的 見 解	60～30分前	2.67(1.18)	2.00(1.15)	2.31(1.40)	2.38(1.39)	1.93(1.03)	1.79(.86)	2.63(1.11)
	30～15分前	2.25(1.16)	2.67(.75)	2.44(1.27)	1.77(.97)	2.29(1.16)	2.21(1.01)	2.75(.97)
	15分前～定刻	2.42(1.32)	3.33(.47)	2.88(1.05)	2.46(.84)	3.50(1.24)	3.15(.95)	3.38(1.32)
	0～15分遅刻	5.17(1.67)	6.17(.69)	5.44(1.06)	4.85(.77)	6.14(.91)	5.36(1.34)	6.13(.93)
	15～30分遅刻	5.83(1.46)	6.67(.47)	6.56(.70)	6.00(.96)	6.71(.45)	6.21(.77)	6.50(.71)
	30分以上遅刻	6.42(.86)	6.83(.37)	6.88(.33)	6.31(.99)	6.93(.26)	6.86(.35)	6.75(.43)
強度(I)		10.08	11.67	11.25	10.54	12.07	11.27	10.63
是—否認差(D)		−0.75	−3.67	−2.50	+0.23	−3.50	−1.58	−4.13
—致度(C)		7.66	3.90	5.82	5.93	5.06	5.29	5.46
集 団 規 範	60～30分前	2.75(1.30)	2.67(1.37)	2.44(1.12)	2.31(1.43)	2.00(1.00)	2.21(1.08)	2.88(1.17)
	30～15分前	2.67(1.25)	3.50(.96)	2.69(1.16)	2.08(1.27)	2.29(1.22)	2.57(1.05)	3.38(.86)
	15分前～定刻	2.58(1.38)	4.17(.90)	3.25(1.03)	2.46(1.08)	3.50(1.50)	3.21(1.08)	3.63(1.11)
	0～15分遅刻	4.75(1.59)	6.00(1.15)	6.19(.73)	5.23(1.31)	6.43(.82)	5.64(1.04)	6.13(1.05)
	15～30分遅刻	5.58(1.66)	6.50(1.12)	6.75(.43)	5.77(1.48)	6.86(.35)	6.43(.73)	6.63(.48)
	30分以上遅刻	6.08(1.26)	6.50(1.12)	7.00(.00)	6.31(1.07)	7.00(.00)	6.86(.35)	6.88(.33)
強度(I)		8.42	9.00	11.56	10.46	12.50	10.93	9.75
是—否認差(D)		−0.42	−5.33	−4.31	−0.15	−4.07	−2.93	−5.50
—致度(C)		8.43	6.62	4.46	7.64	4.89	5.33	5.00
規範の虚構性(F)		1.67	3.00	1.81	1.00	.57	1.35	1.38